

# いちのへ SDGs mirai カフェ Vol.6

～これからの一戸町を語ろう～



開催日時：令和6年2月10日（土）13:30～15:30

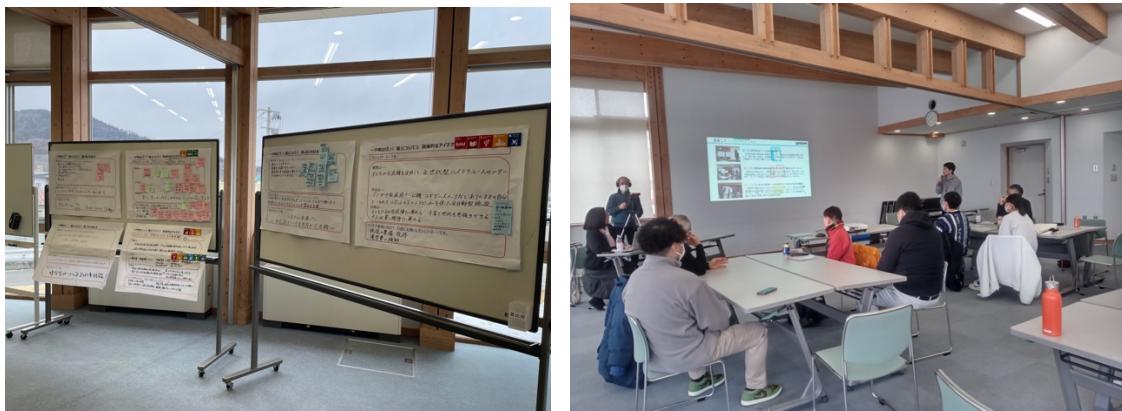
会場：一戸町コミュニティセンター 会議室

主催：一戸町

町への期待や想い、一戸の未来について気軽に意見交換し、どんな町に暮らしたいか、やりたいことは何かを話し合うタウンミーティング「いちのへ SDGs mirai カフェ」。2月10日、最終回の第6回は、13名の方に参加いただき、これまでの活動の振り返りを行うと同時に、一戸町を元気づけるための新たなヒントとして、コラボレーション（協働）による様々な活動を実践しているゲストスピーカーをお招きし、事例紹介と対話を行いました。

## ①2023年度の振り返りと今後について

第1回から5回までの活動の振り返りを行いました。また、第5回の発表・提案を受けて一戸町の事業へ反映された「企業情報発信サイト作成事業」、「防災ボードゲームの貸し出し」について報告がありました。



日程	振り返り
Vol.1 ～SDGs を楽しく学んで一戸町の「いま」を知ろう～ 令和 5 年 7 月 15 日（土）	2030SDGs カードゲームで SDGs の本質を体験から学び、一戸町総合計画町民アンケート調査結果やカードゲーム体験から、参加者それぞれが取り組んでみたいことなどを話し合いました。 ・2030SDGs カードゲーム ・町の現状への満足度と課題について（一戸町総合計画町民アンケート調査結果） ・対話の時間
Vol.2 ～SDGs とまちづくりとは？どんな町に暮らしたい？～ 令和 5 年 8 月 20 日（日）	「SDGs de 地方創生カードゲーム」で 2030 年までのまちづくりを様々な立場で体験しました。また、一戸町総合計画町民アンケート調査結果やカードゲームの体験から、参加者それぞれが関心を持っている、町の現状における満足度や課題などを話し合いました。 ・SDGs de 地方創生 カードゲーム体験 ・町の現状への満足度と課題について（一戸町総合計画町民アンケート調査結果） ・対話の時間
Vol.3 ～仲間を見つけて深堀り会議！～ 令和 5 年 10 月 1 日（日）	第 1 回、第 2 回で話し合ってきた一戸町のことを、「働く場」「楽しむ場」「集まる場」の 3 つのテーマに整理して深堀りし、今どうなっているのか（現状把握）、さらに「ありたい姿」について話し合いました。 1. 現状把握する 2. ありたい姿を考える 3. 共有の時間
Vol.4 ～やりたいことを形にしよう！第二弾深堀り会議～ 令和 5 年 10 月 29 日（日）	第 3 回の深堀り会議から引き続き、一戸町の「場」について、ありたい姿を実現するために何が必要か、そしてどんなことができるかについて話し合いました。 1. テーマについて・前回の振り返り 2. ありたい姿を実現するために必要な・大切なものは？ 3. 具体的にどんなことができるか？ 4. 振り返り
Vol.5 ～やりたいことを広めよう！大プレゼン大会～ 令和 5 年 11 月 19 日（日）	第 3 回、第 4 回の深堀り会議で話し合われた町の活性化や社会課題解決のアイデアを、行政へ伝えたいことやこれまでの経緯も踏まえて発表しました。

## 発表内容

# 発表



### A.働く場

大人が活き活き ワクワク 楽しく おしゃれに かっこよく 笑顔で ありがとう があふれている 職場がある地域になっている

### 中学生がつくるお仕事図鑑！

- ・中学生自身が働く場を調べ体験し、一戸町のお仕事図鑑の製作を通じて「働く場」を知る。
- ・企業は中学生を迎えることを通じて、魅力ある職場作りに取り組む。



### B.楽しむ場

一人一人が心と身体に余裕（ゆとり）を持って毎日を過ごす！

### 防災×スポーツ Bosai Gakusai Meeting

- ・防災を楽しむことの意味が込められていて「防災を楽しく学ぶイベントを考えるための話し合い



### C.集まる場

町内外関わらず 他世代の人が こたつに入りながら働いたり、勉強したり、おしゃべりして、人と人が繋がれる場

### 今から未来へ～みんなでつくるまちなか交流館

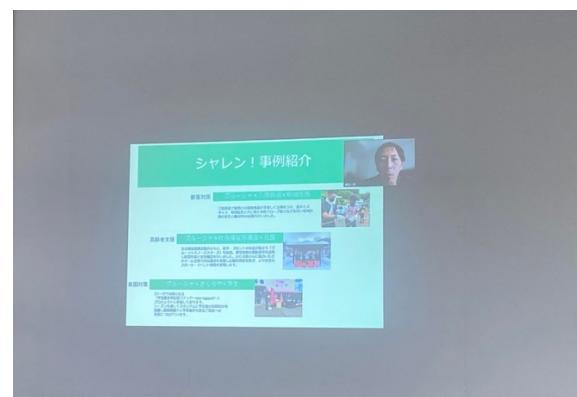
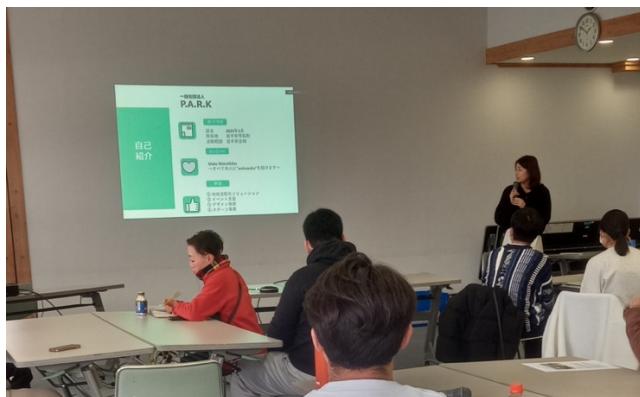
- ・まちなか交流館を活用して、全世代型ハイテクユースセンター

## ②これからの一戸町を語ろう×スポーツ（事例紹介）

一戸町を元気づけるための新たなヒントとして、コラボレーション（協働）による様々な活動を実践しているゲストスピーカーとして、株式会社ベガルタ仙台 一般社団法人 P.A.R.K※1 代表理事 福田一臣さん（オンライン）、同事務局 櫻田七海さんをお招きし、事例紹介と対話を行いました。

櫻田さんは、「スポーツを手段としたまちづくり」について、また事例として零石町「どろリンピック」※2 や、「イザ！カエルキャラバン」※3 を紹介いただきました。

また、福田さんは、いわてグルージャ盛岡時代に担当されたシャレン活動（Jリーグ社会連携）※4を中心、「共通のテーマを持って協働すること」についてお話をいただきました。



また、対話の時間では、参加者からの質問に回答いただきました。

(福田さんから)

- ・何かと何かを掛け算することが大事。
- ・発表された「お仕事図鑑」も掛け算で新しい取り組みになる、例えば「お仕事図鑑×スポーツ」とすれば、就活にバスケやサッカーを取り入れてみる、など。普段見られない姿を見ることができるのは、いいことではないだろうか？
- ・シャレンで関係人口を増やすことができるかもしれない。
- ・ワクワクしなければやらない。
- ・スポーツチームが（まちづくりやシャレンなどの）ハブにならなくてもいい。
- ・もっと多くの人を巻き込んでいきたい。
- ・今あるものを使っていくのが良い。
- ・高齢者やケガをしている人などと、企業が一緒に何かできたら良い。
- ・ゲーム方式、楽しみながら気軽にできるようなものがあれば参加しやすい。
- ・つながりも大事。
- ・健康×自転車×子ども食堂、と、全部掛け合させてみることも何か起こるかもしれない。

(参加者からの質問など)

- ・P.A.R.K の設立経緯は？

→民間や地域に沿ったまちづくりをしたいということから始まった。（スポーツにおける）ホームタウン活動と町づくりは相性がいい。（福田さん）

- ・シャレンのやり方は？

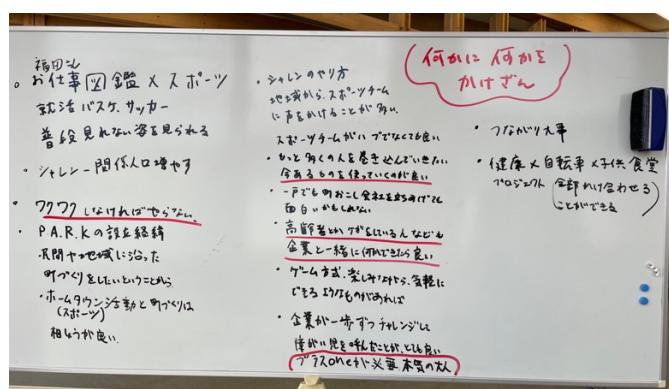
→地域からスポーツチームに声をかけることが多い。（福田さん）

- ・川崎フロンターレのシャレン活動をお手本としているのはなぜ？

→障がいを持つ児童を試合に招待するだけでなく、それぞれの企業がプラスオンでできることにチャレンジしたこと。

本気の大人はすごいぞ！が見えたから。（福田さん）

- ・岩手ではラグビーを体験したことがない人が多い。もっとラグビーにも親しみを持ってほしいと思い、主に子ども向けてタッチラグビーに触れてもらう機会を作っている。



## ゲストスピーカー

株式会社ベガルタ仙台 一般社団法人 P.A.R.K 代表理事 福田一臣さん（オンライン参加）

2020年 いわてグルージャ盛岡入社 スポンサー・セールスと岩手県33自治体を担当。ソノツヅキ SDGs アンバサダーとしても活動し、いわてスポーツプラットフォームPJ 推進チームとしてスポーツクラブの課題や地域課題の解決に向けたアクションを行う。2022年スタジアムのごみ問題解決に向けた「グルージャごみゼロPJ」にてJリーグシャレンAWARDS「ソーシャルチャレンジャー賞」を受賞。2023年一般社団法人 P.A.R.K を設立し、スポーツを活用した地域課題解決事業をスタートし同年、ベガルタ仙台に入社し仙台市と連携したスポーツツーリズムのスタートアップの他、東北大学×バンコクFC×ベガルタ仙台の日本初となる産×学×Jリーグの連携を立ち上げ、グローバル人材の育成やSDGs活動、そして国際的なビジネス交流等などを通じて東北を盛り上げる活動を行う。

## 一般社団法人 P.A.R.K 事務局 櫻田七海さん

SDGs de 地方創生 公認ファシリテーター。

2023年度 SDGs Quest みらい甲子園岩手県大会実行員を務め、地域コミュニティ支援や市民活動の支援を行っている。

## ③チェックアウト（感想など）

最後にグループに分かれて、第5回まで取り組んできたことを踏まえて気づいたことや、参加してみての感想、来年に向けた期待などを話し合いました。



### 【参考】

※1 一般社団法人 P.A.R.K <https://park-waku2.studio.site/>

※2 電石町「どりリンピック」 [https://youtu.be/BEVvyq3fiRQ?si=\\_Qce5fpr3u7SefHA](https://youtu.be/BEVvyq3fiRQ?si=_Qce5fpr3u7SefHA)

※3 イザ！カエルキャラバン <https://kaeru-caravan.jp/>

※4 シャレン活動（Jリーグ社会連携） <https://www.jleague.jp/sharen/>

いわてグルージャ盛岡（シャレンアワード2022受賞ページ） <https://grulla-morioka.jp/sharenawards/>